

# 西諸県地域の普及活動

令和7年7月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 西諸県地区農業経営指導士会総会及び普及指導活動計画検討会を開催

11日に、農業経営指導士11名全員の出席のもと、総会と検討会を開催しました。

総会では、昨年度の事業実績と今年度の事業計画について協議し、令和7年度から9年度までの役員を選出しました。新たなメンバーを迎え、税所篤会長、梶井誠副会長をはじめとする新しい体制で3年間活動していきます。

今年度は、九州・沖縄農業士研修会において、当地域から瀬戸山貴行氏が事例発表を行う他、管内の若手農業者や県内指導士間の交流を深めながら、地域の農業振興に向けた活動を展開していきます。

また、検討会では、普及センターから普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題について説明を行い、指導士の皆様からは実情に即した御指導、御助言をいただきました。これらを踏まえ、長期計画の策定や普及活動に取り組んでまいります。



【計画等を検討する指導士たち】

### 2) 7月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年7月期子牛郡品評会が開催されました。

7月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た30頭が出品され、審査の結果、優等賞に6頭、壱等賞に16頭、弐等賞に8頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の山田真司さん出品の「やましん 866」号（福晴茂－真華盛－耕富士）、2席は高原町の寺前辰哉さん出品の「うぶひめ」号（耕富士－満天白清－真華盛）、3席は小林市野尻町の下村美輝さん出品の「ひなじよ 190」号（守浩桜－洋紀久－忠富士）が受賞されました。



【やましん 866 号】

受賞牛は発育良好で体積豊か、輪郭鮮明で肩付き良好であるとの講評でした。

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、  
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。  
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

## Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

#### 1) 就農相談会を実施

9日に、小林市できゅうりと水稲で就農を目指している方の相談に対応しました。  
また、同日、えびの市で、イチゴ、び水稲等で就農を目指している方、2名の相談に対応しました。  
今後も関係機関と連携し、各種支援策の活用や認定新規就農者の認定に向けた支援を進めていく予定です。

※就農相談対応 3名3回

(内訳：小林市：施設野菜・水稲1名、えびの市：施設野菜1名、水稲等1名)

#### 2) 九州・沖縄地区青年農業者会議でえびの市 SAP がプロジェクトを 発表

17～18日に、熊本市で開催された九州・沖縄地区青年農業者会議において、えびの市 SAP 会議の立久井氏がプロジェクト発表の部に宮崎県代表の一人として出場し、里芋収穫作業の機械化による作業負担軽減の取組について発表を行いました。惜しくも全国大会出場は逃したものの、課題解決のための手法や活動をわかり易くまとめた発表内容は九州代表に選出された発表にも全く引けを取らないものでした。



今回の発表が他の SAP 会員のお手本として、今後のプロジェクトの取組につなげられるよう支援を行っていきます。

【里芋分離機の開発について発表する立久井氏】

#### 3) 令和7年度西諸県農業者セミナーがスタート

##### ①アグリ★ベーシックセミナー 第1回、2回、3回目を開催

10日に、普及センターで第1回目のセミナーを開講し、12名の新規就農者等が参加しました。内容は「普及センターの機能役割についての紹介」、「農業気象」、「栽培管理の基礎」についてで、講師は普及センターが務めました。



16日に、第2回目のセミナーを開催し、9名の新規就農者等が参加しました。内容は「肥料の効果と使い方」、「農業経営とライフプラン」についてで、講師は普及センターが務めました。

23日に、第3回目のセミナーを開催し、6名の新規就農者等が参加しました。内容は「農作業機械のメンテナンスと農作業安全」についての講義で、講師は JA みやざき本店が務めました。

【第1回のセミナーで、講義に聴き入る受講者達】

新規就農者にとっては、はじめて知る内容も多くあり、各講義で多くの質問が出るなど積極的に参加する様子が見受けられました。

## ②アグリ★ステップアップセミナー第1回を開催

25日に、西都市でピーマンを生産している株式会社イニファームの橋口仁一氏を講師に迎え、担い手の経営管理能力の向上を目指した研修会を開催しました。

セミナーは、目標設定の立て方やライフプランの重要性、データを元にした栽培管理の注意点等を話していただき、その後は参加者からの質問に答える形で対話を広げられました。参加者からは、経費削減の視点や従業員への指示の出し方などについて質問がでました。

今後も経営能力向上に向けた支援を行っていきます。



【和やかな雰囲気の中、質問する受講者生達】

## (未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

### 1) 飼料用米栽培講習会を開催

25日に、えびの市西川北で、飼料用米の栽培講習会を開催し40人が参加しました。普及センターから、生育状況や病害虫発生状況、今後の水管理等について説明し、参考として飼料用米の乾田直播について情報提供しました。

今のところ生育順調であり、収量増加が期待されます。



【説明内容に聞き入る参加者達】

## (にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

### 1) さといも「大和39」の生育調査を実施

3日に、さといも有望系統「大和39」の地域適応性を評価するため、地上部の生育調査を実施しました。比較調査した品種（「りんご」）に比べ、草丈や葉の大きさは小さく傾向にありました。

今後は、9月に収量調査を実施し、生産者や実需者の評価をもらい産地への導入可否を検討します。



【「大和39」調査時の茎葉部】

### 2) かんしょ 茎・根腐敗症の発生状況調査の実施

31日に、JA、市町担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ茎・根腐敗症の発生状況調査を実施しました。本作では、特に、茎根腐細菌の発生時期が早い傾向があります。

今後も発生拡大防止対策や効率的な防除の推進などの、情報発信に努めます。



【かんしょ定期巡回】

## (魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

### 1) セリ前講習会の実施

14～16日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。7月は普及センターから「暑熱ストレスの影響と対策」、「降灰への留意点と対策について」、NOSAIの佐藤先生から「暑熱期の繁殖」をテーマに講習会を行い、延べ250名程度の参加がありました。

参加者からは、送風機の清掃方法について質問があり、当講習会を通して暑熱対策を始めるきっかけを作ることが出来ました。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行い、良質な自給飼料の増産を目指していきます。



【講習会に参加する農業】

## (スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

### 1) えびの市いちご若手生産者経営検討会を開催(第9回)

23日に、えびの市いちご団地にて、いちご若手生産者の経営検討会を開催しました。この検討会では、月毎の作業スケジュールや栽培、経営状況等の確認を行っています。今回は、昨年度までの決算書をもとに経営分析を行い、今作の経営目標を設定しました。生産者からは、経営を見直す良い機会になったとの意見を頂きました。

今後は他の若手生産者に対しても同様の支援を行っていきます。

## (魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

### 1) ぶどう県外産地視察の実施(山梨県)

14～15日にかけて、小林市果樹農業振興推進対策協議会及びJA梨ぶどう生産部会合同の山梨県ぶどう視察が開催され、生産者10名、関係機関3名が参加しました。醸造所や生産者園地、果樹試験場を視察し、生産者や試験場職員とぶどうの管理方法や有望品種等について意見交換を行いました。山梨県は降水量が当地域よりも少ないため、雨除けのない露地栽培でぶどうが広く栽培されており、環境の違いを実感しました。今回の視察で学んだ内容を、当地域でも活かしていきます。



【説明に聞き入る参加者達】

### 2) 若手生産者「ぐれ〜ぷ」への支援

#### ①園地巡回

17日に、小林市内にて、ぐれ〜ぷの園地巡回が実施され、参加者全員の園地(7園地)を巡回しました。巡回にはぐれ〜ぷ8名、普及センター1名が参加しました。参加者は、着色状態やアブサップ散布の効果、収穫予定日など、積極的に意見交換をしていました。普及センターからは昨年のアブサップ展示ほの試験結果及び果樹カメムシ対策の説明を行いました。

今後も関係機関と連携して生産安定に向けた支援を行っていきます。



【会員による意見交換】

## ②試験場視察（ぶどう「サニーハート」）

28日に、ぶどう品種「サニーハート」の試験場視察にぐれ〜ぷ会員3名と普及センター1名が参加しました。試験場職員に品種の特徴を説明いただいた後、試食、現地見学を行いました。参加者は、着色状態や糖度のり、管理の手間など、積極的に質問されていました。

今後も関係機関と連携して、シャインマスカットに続く有望品種を模索していきます。



【説明を受ける会員達】

## 3) ピオーネのアブサップ液剤の散布

18日に、小林市内にてアブサップ液剤の散布を営振協展示ほととして行いました。昨年は、希釈倍率の影響による効果を試験しましたが、今年は散布のタイミングを変更することによる労働時間への影響を中心に調査します。

今後は定期的な着色状況調査と8月末には果実分析等を行う予定です。



【タイミングを変更しての液剤散布】

## （西諸県地域の特色を活かした花き産地振興）

### 1) JAこばやし花卉部会総会が開催

2日に、普及センターを会場に生産者5名と家族、市場担当者や市町など関係機関13名が参加し、JAこばやし花卉部会の総会が開催され、いずれの議案も承認されました。昨年度は個別巡回、重陽の節句の知事へのキク贈呈や県外視察を実施しました。今期も昨年と同様の活発な活動が計画されています。

また、総会に先立ち、市場担当者と販売情勢や8月お盆出荷、今後のキク生産の見通しなどについて意見交換しました。

単価安など依然として厳しい状況ですが、高品質なキクの生産に向けて、今後も支援を行っていきます。



【普及センター所長の祝辞】

### 2) 高原町花卉部会定例会が開催

24日に、高原町後川内にて、農家3名と家族、関係機関4名が参加し、定例会が開催されました。定例会では会員のほ場を巡回し、一部に高温の影響があるものの、概ね順調な生育状況を確認しました。普及センターからは、遮熱対策の紹介や熱中症予防、降灰対策について説明しました。

今後も良品生産に努める部会員の皆さんを、しっかりと支援していきます。

## 2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

### 1) 第2回水稲栽培基礎講習会を開催

3～4日にかけて、JA 高原支店、JA 野尻支店、須木ふれあいセンター及び普及センターにて、第2回こばやし地区水稲栽培基礎講習会を開催し、当管内の生産者49名が参加しました。

講習会では、水稲栽培管理の後半(中干し、穂肥、病虫害防除、収穫・調製)や高温対策(水管理)などの基礎的な内容を説明したところ、出席者からは、高温対策の水管理について多くの質問が出されました。

今後は、関係機関との連携を図りながら生産者への支援を行っていきます。



【第2回水稲栽培基礎講習会】

### 2) えびの市で水稲あぜ道講習会を開催

25日に、えびの市の8地区で水稲あぜ道講習会を開催し、延べ40名の生産者が参加しました。講習会では、水稲栽培管理の後半(中干し、水管理、穂肥、病虫害防除、収穫等)について説明しました。

今後とも関係機関と連携しながら、生産者への支援を行っていきます。



【説明を熱心に聞く参加者】

### 3) きゅうり県外産地視察の実施(福島県、岩手県)

9～11日にかけて、福島県及び岩手県のきゅうり産地視察を実施し、JAこばやしきゅうり担当者と西諸県農林振興局、普及センター職員が参加しました。今回の視察は、きゅうり産地における環境制御技術や高温対策等の取組状況の把握が目的であり、現地を確認しながら生産者や指導員と意見交換を行いました。現地では、低コストの環境制御技術や遮光ネットによる高温対策などの活用状況を確認することが出来ました。

今回の視察で学んだ取組は、当地域でも活かしていきたいと思えます。



【福島県内の共選場の視察】

### 4) えびの市でJAピーマン担当者会の開催

17日に、JAえびの市管内の雨よけピーマンほ場において現地検討会が開催され、県内各地区本部の夏秋ピーマン担当者及び専技、普及センター職員が参加しました。西諸県管内では、雨よけピーマンにおける高温対策として、POクールや遮熱剤の現地実証を行っています。今回の検討会では、その取組状況を共有するとともに、各地域の栽培状況等の情報交換を行いました。

高温による着果不良などどの地域も同じような問題が起きているようですが、各地域での対策など今後も情報交換を行い、課題解決を図っていきます。



【ほ場での生育確認】

## 5) JAこばやし夏秋きゅうりほ場合合同巡回

22日に、JAこばやし管内にて、JA及び種苗メーカー、普及センターの職員で夏秋きゅうりほ場合合同巡回を行いました。月1回行っているこの合同巡回では、管内の夏秋きゅうりの生育状況や品種特性、病害虫の発生状況等の確認を行っています。5月の低温や6月の高温、7月の曇雨天など管理が難しい月が続いていますが、適切な肥培管理や病害虫防除の徹底により、品質の良いきゅうりが生産されていました。

8月に入り気温が高くなることも予想されていますので、引き続き高温下でのかん水や肥培管理などについて指導を行っていきます。



【生育良好な7月定植の株】

## 6) 第16回JAこばやしピーマン部会定期総会の開催

24日に、小林市内にて、JAこばやしピーマン部会の定期総会が開催され、市場や市町、普及センターが参加しました。議事ではすべての議案が可決され、新たな年度がスタートしました。部会長からは、「高温によりピーマンが作りづらくなっている状況ではあるが、しっかりと対策を打ち、収量を確保していきたい」との発言がありました。普及センターとしては、今年度夏秋ピーマンにおいて高温対策の実証をJAと連携して行っています。実証結果は部会講習会等で周知し、技術の波及を図っていきます。



【表彰を受ける生産者】

## 7) 令和6年度小林市いちご生産部会定期総会の開催

31日に、小林市内にて、小林市いちご生産部会の定期総会が開催され、普及センターは来賓として参加しました。議事ではすべての議案が可決され、新たな年度がスタートしました。普及センターからは、いちご育苗における高温対策として、今年度実施する遮光ネットや強制外気導入などの実証について説明を行いました。生産者からは遮光による生育への影響や遮熱剤の効果等について質問があり、高温対策に対して高い興味を示していました。

定植まで約2ヶ月となりましたので、苗が暑さに影響されないよう、かん水や高温対策などの技術指導を引き続き行っていきます。



【総会での部会長あいさつ】

## 8) JA えびの市かぼちゃ栽培講習会の開催

16日、洋種かぼちゃの品質と収量向上のため、JA えびの市が普及センターを講師に招き講習会を開催しました。

かぼちゃの抑制栽培には、育苗期は気温が高く、収穫期は霜が降りる恐れもあり、難しい作型となっています。

普及センターからは、栽培マニュアルに沿って、播種から定植までの高温期、および誘引から交配・収穫までの低温期について、作業のポイントや注意する点について説明を行いました。出席した生産者は普及センターの説明を熱心に聞いていました。

7月下旬から播種が始まり、本格的なかぼちゃ栽培が始まります。

## 9) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JA 梨ぶどう生産部会の合同役員会

31日に、小林市役所にて小林市果樹農業振興推進対策協議会及びJA 梨ぶどう生産部会の合同役員会が開催され、役員7名と関係機関3名が参加しました。今回は、梨・ぶどう品評会についての検討を行い、令和7年8月25日の開催が決定しました。去年は台風で中止になったため、2年ぶりの開催になります。

今後も、開催に向けて関係機関と連携し準備を進めていきます。

## 10) 鹿児島県梨ぶどう生産者視察対応

29日、小林市内にて、鹿児島県の梨ぶどう生産者視察に対応しました。鹿児島県側の参加者は生産者32名、関係機関3名であり、当普及センターは2名で対応しました。管内生産者3件の園地を視察し、視察者からは、視察園地の新梢管理の上手さや房の大きさ等、技術力の高さに感嘆する声が聞かれました。管外生産者との交流は、管内産地の状況を客観的に見ることでできる機会にもなるので、適宜対応していきます。



【他県生産者に説明する生産者】

## 11) 営農振興協議会花き技術員研修が開催

10日にえびの市内の現地やJA えびの市地区本部を会場に、JA や県の技術員23名が参加して開催されました。これは県内の花き技術員を対象に、産地の課題解決に資する資質向上を図る目的で開催されるもので、今年度はえびの市内で生産されている、キイチゴやパンパスグラスのほ場視察や、高品質な花き生産に向けた対策についてディスカッションしました。県内各地の技術員が一同に会することで、各産地の取組が分かる良い機会となりました。

## 12) 花の駅生駒高原に花きを植栽

11日に、生駒地区で進行中の「生駒地区内での花いっぱいプロジェクト」の一環として、小林市内の鉢苗物生産者3名と市や県の担当者5名が参加し、昨年度に整備したフォトスポット用の花壇に、夏秋の花き苗を植栽しました。植栽した花は6種類、いずれも管内で生産されました。今後もプロジェクトメンバーを中心に、花の管理を実施していきます。

花きで生駒地区の活性化につながるように、生産者や関係者と連携して取り組んでいきます。



【見栄えを意識して花を配置】

## 13) 西諸県地区花き振興会総会及び研修会が開催

28日に、県の小林総合庁舎において、花き生産者11名、関係機関10名が参加し、西諸県地区花き振興会の総会及び研修会が開催されました。

総会は、いずれの議案も承認されました。昨年度は保育園児を対象とした花育教室やえびの市内最高齢者へのフラワーアレンジメント贈呈など、様々な事業を実施しました。今期も活発な活動が計画されています。

研修会では、総合農試花き部の中村部長を講師に迎え、管内でも問題となっている花き生産における高温対策について講演がありました。植物の生理を理解した基本管理の重要性を改めて認識できました。

花きの情勢は、生産者に限らず、花屋等も含め、依然として厳しい状況となっていますが、振興局やJA、市町などの関係機関と協力して引き続き支援していきます。